

「木の芽起こし」と「名残雪」

「春」の語源は、「張る」からきているといわれ、「のびひろがる」「ふくらむ」「ふくれる」などの意味があり、万物が生氣に満ちることを表しています。

英語は「スプリング (spring)」、これには「おどる」「はねる」「湧き出る」「芽をだす」「生じる」などの意味があり、日本の「張る」に相通じています。

厳しかった冬を乗り越え、待ち望んだ春を迎えるのは万国共通の喜びですが、冬場の乾燥した空気に比べ、春の空気は水蒸気を多く含み瑞々しく、日立の月降水量も 100 ミリを超えてきます。

特に春先の雨は「木の芽起こし」と呼ばれ、木々や草花の生命を目覚めさせてくれます。

しかし、大陸の寒気も時折勢いを盛り返し、春の日本列島に冬の寒さをもたらします。このような時に日本の南岸を低気圧が通過すると、関東地方でも季節はずれの雪が降ることがあります。

春に降る雪は水分が多い「牡丹雪」、すぐに融けてしまいますが、冬の季節の終わりを告げる「名残雪」でもあります。

< 3 月の暦と関東甲信地方の季節予報 >

- ▽ 3 日 「上巳の節句 (桃の節句)」
- ▽ 5 日 「啓蟄」(二十四節気)
- ▽ 20 日 「春分」(二十四節気)
- ▽ 23 日 「世界気象デー」

日立の気候表

	2 月	3 月	4 月
平均気温	4.4℃	6.8	12.0
降水量	61.9mm	103.5	137.5
日照時間	173.0 時間	181.3	175.0

平年値 (1971~2000 年)

季節予報では 3 月の天気は数日の周期で変わり、気温は高い確率が 50%、降水量は平年並の確率が 40%と予想されています。



(この予報は 1 月下旬発表のものです。)

【気象現象の不思議】

助川山林野火災と「海風前線」

林野火災は平成 3 年 3 月 7 日午前 10 時 50 分頃に発生、最大瞬間風速が西北西の風 16.5m/s、最小湿度 14%という気象条件の中、またたく間に拡大し山際の住宅を巻き込みながら、火勢は住宅団地にまで迫っていました。

14 時 30 分頃から風向きが急に西北西から南よりに変わって、気温が下がり湿度は 30%台にまで急上昇、この状態は 16 時頃まで続き、火勢を弱めるのに大きな効果がありました。

この現象は、季節風によって乾燥し火災の熱で温度が上昇した空気層のところへ、鹿島灘沿岸部から冷たい湿った南東の風が不連続線となって進入してきた「海風前線」と考えられています。

当時、対策に当たった関係者は「神風が吹いた」と感じたものですが、山林 217.7ha、住宅など 26 棟が全半焼した被害は大きく、完全な鎮火は翌 8 日となりました。

※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。

<http://www.jsdi.or.jp/~hctenso>

行政放送 (ケーブルテレビ 5ch) でも定期的に天気予報をお知らせしています。

電話での問合せは、直通電話 22-5520 IP 電話 050-5528-5066 へどうぞ。